

# 鼠径ヘルニア手術(入院対応)

足の付け根のふくらみ、放置していませんか？

入院で安心・安全な治療を行います

 鼠径ヘルニア外来は予約不要です

## こんな症状ありませんか？

✓ 立つと足の付け根がふくらむ

✓ 横になると戻る

✓ 違和感や痛みがある

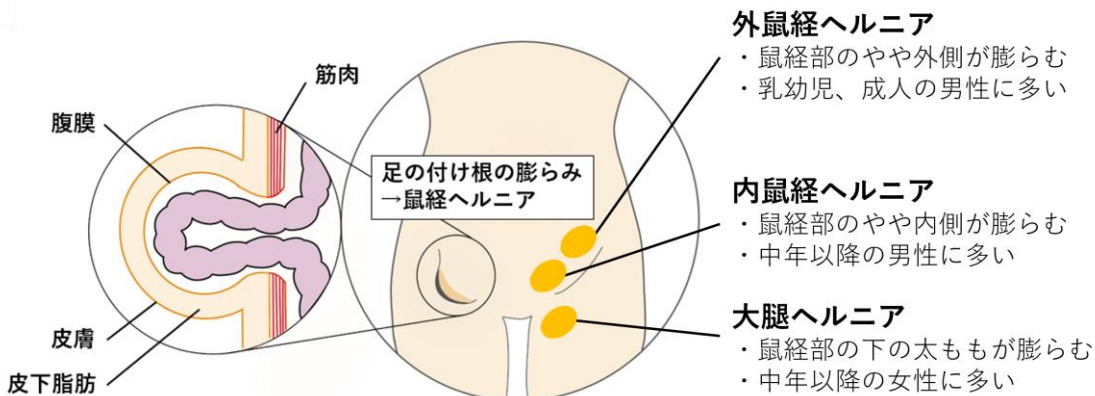
✓ 最近大きくなってきた

 1つでも当てはまれば受診をおすすめします

## 鼠径ヘルニアとは

腹壁の隙間から腸や脂肪が飛び出す病気です。自然に治ることはありません。

放置すると嵌頓(かんとん)により、腸が戻らなくなり緊急手術が必要になる場合があります。



# 放置すると以下のような危険があります

## 主な合併症:

- 嵌頓(腸が戻らなくなる)
- 腸閉塞
- 緊急手術の可能性

✓ 早期治療が安全です

## 当院の特徴



### 専門医による手術

経験豊富な外科専門医・消化器外科  
専門医・内視鏡手術に特化した医師  
が対応します



### 入院で安心の管理

術後合併症にも迅速対応。  
高齢者でも安全に治療可能です



### 腹腔鏡手術対応

傷が小さく回復が早い低侵襲手術で、  
再発率も低いです

# 手術方法

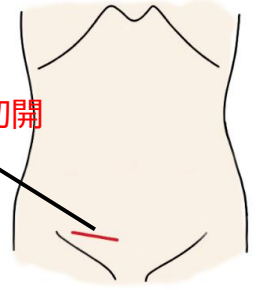
## 鼠径部切開法

足の付け根を4～6cm程度切開して行う方法です。  
ヘルニア脱出部の前方から医療用メッシュを当てます。

メッシュを留置する部位によって、Lichtenstein法、Direct Kugel法、  
Mesh plug法などの術式があります。

当院ではLichtenstein法(リヒテンシュタイン法)を主に行っています。 **Lichtenstein法**

4-6cmの皮膚切開



### ✓ メリット

- 以前から行われており方法が確立している
- 局所麻酔、脊椎麻酔でも手術が可能
- 腹部手術歴がある場合も影響を受けにくい

### ✕ デメリット

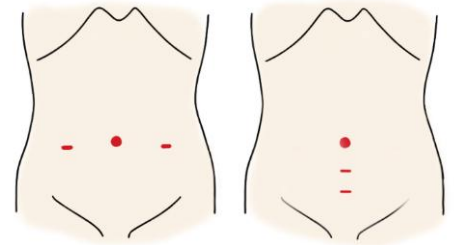
- 傷のサイズが大きくなる

## 腹腔鏡手術

5mm～1cm程度の小さな傷からお腹に筒(ポート)を入れて  
行う方法です。  
お腹の内側から医療用メッシュを留置します。

### 主な術式

- TAPP法: 腹腔内(お腹の中)から手術操作を行う
- TEP法: 腹腔内には到達せずにお腹の壁の中から手術操作を行う



**TAPP法**

**TEP法**

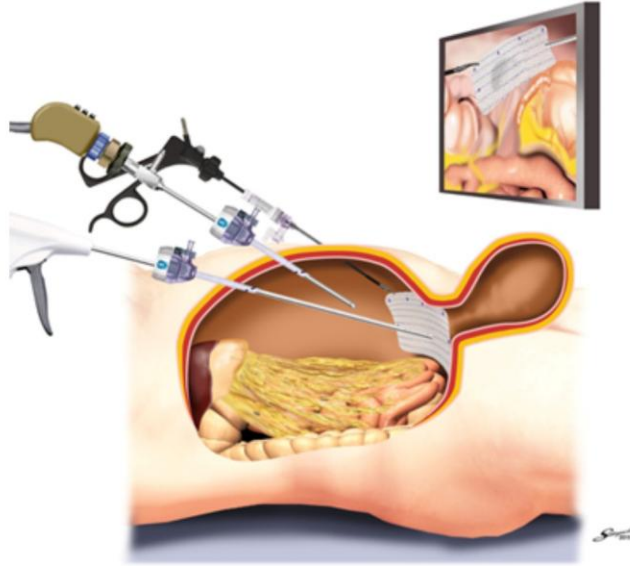
### ✓ メリット

- 傷が小さく術後の痛みが少ない
- 両側のヘルニアも同一の傷で手術することができる

### ✕ デメリット

- 全身麻酔が必要
- 鼠径部切開法と比較して手術時間が長くなる傾向がある

## 腹腔鏡手術のイメージ



画像は日本臨床外科学会HPより

患者さんの年齢・症状・生活スタイルに最適な方法をご提案します

## 治療の流れ

1. 外来受診

2. 検査

3. 手術日決定

4. 入院・手術

5. 退院

6. 外来フォロー

# よくある質問

## Q. 手術しないといけませんか？

A. 根治には手術が必要です。薬やサポーターでは治りません。

## Q. 入院は必要ですか？

A. 安全性を重視し入院で対応しています。術後の急な合併症にも対応できます。

## Q. 仕事復帰は？

A. 重いものを持つなどの重労働でなければ退院翌日からも復帰可能です。  
医師の指示に従ってください。

## Q. 費用はどのくらい？

A. 各種健康保険適用範囲です。詳しくはお問い合わせください。